

## 「もの忘れ外来」の画像診断

木沢記念病院 脳神経外科

奥村 歩

少子高齢社会を迎えて、高齢者の日常生活で見られてくる認知機能の低下の中から治療可能な病態を的確に抽出し、治療していくことが臨床家に求められている。「もの忘れ外来」とは、認知症の早期診断・鑑別診断を大きな目標とした外来ではあるが、「treatable dementia」を確実に診断して治療することも重要である。

高齢者の「うつ病」は認知症に非常に似た症状を呈し、「うつ病性仮性認知症」と呼ばれている。「うつ病性仮性認知症」は SSRI 等の適切な投与により根治率が高いため、見落としてはならない「treatable dementia」である。しかし、高齢者の「うつ病」は認知障害や身体的訴えが前面に出て、若年者の「うつ病」のように「抑うつ気分」がはっきりしないため、その診断は一筋縄ではいかない。「うつ病性仮性認知症」「特発性正常圧水頭症」などの「treatable dementia」と「アルツハイマー型認知症」「レビー小体型認知症」などの代表的な認知症との鑑別に対して、SPECT eZIS 解析画像は有用である。さらに、本法は、治療効果の客観的評価にも応用できる可能性がある。

